

2018年2月14日

人気の先進国株式ファンドはテーマ型一色

- 最近の新規設定ファンドは落ち着いた推移が続いているが、その中でも先進国株式の人気が目立つ。
- さらに先進国株式のなかでは、AI関連、IoT等の情報技術など、テーマ型ファンドへの選好が顕著。
- 直近では、環境意識の高まりや規制強化を背景に、EVや自動運転をテーマとしたファンドが相次いで設定され、人気を博している。



1. 米国大統領選後の新規設定ファンドは先進国株式が大人気

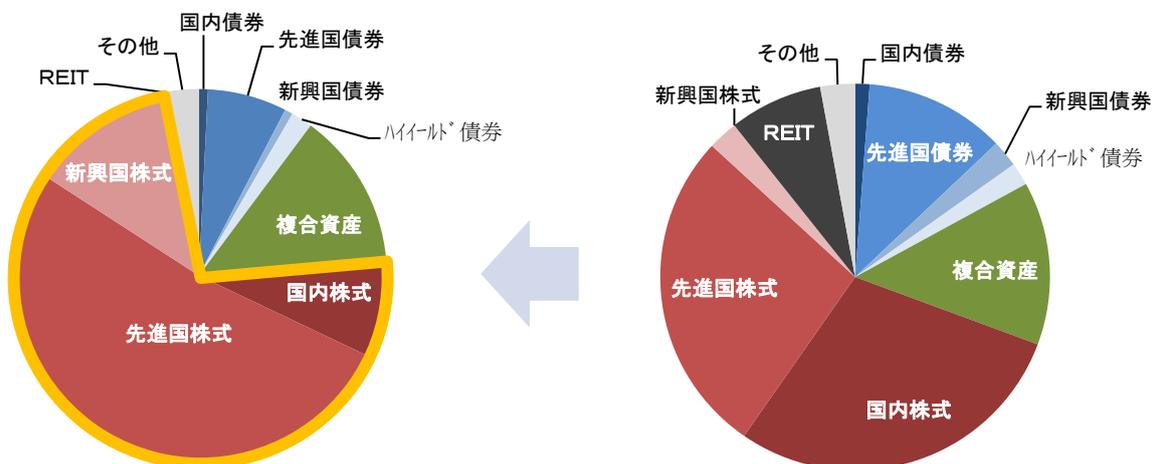
旺盛な新規設定ファンドと頻繁なファンドの乗り換えが課題とされるなか、新規設定ファンドの状況は以前と比べ落ち着いた推移を示している。ただ、その中でも先進国株式ファンドを中心に海外の株式へと投資するファンドは引き続き高い人気を誇っている。図表1は、アクティブ型の新規設定ファンドにおいて、最近の先進国株式ファンドの人気度をイメージしてもらうために、トランプ大統領選挙以降（2016年12月～直近）と、それ以前の3年間に於ける新規設定ファンドのネット資金流入額の資産別構成を示したものだ。

紙面の制約のため割愛したが、実は、新規設定を資産別のファンド数で見るとその構成には大きな変化はない。たとえば先進国株式は両期間において2～3割程度にとどまっている。一方で、その時節の経済状況を反映して資金を集める資産には変化がみられる。以前は国内株式やREITの人気も高かったが、米国の大統領選挙以降は、減税やインフラ事業など選挙公約への期待の高まり、アマゾンやグーグルに代表される情報社会インフラ企業の成長や世界経済の回復基調を背景に、米国を中心とした先進国株式ファンドが資金流入の半分を占めた。

図表1 新規設定ファンドにおける、ネット資金流入額の資産別構成

■ 米国大統領選後（2016年12月～直近）

■ 大統領選前の3年間（2013年12月～2016年11月）



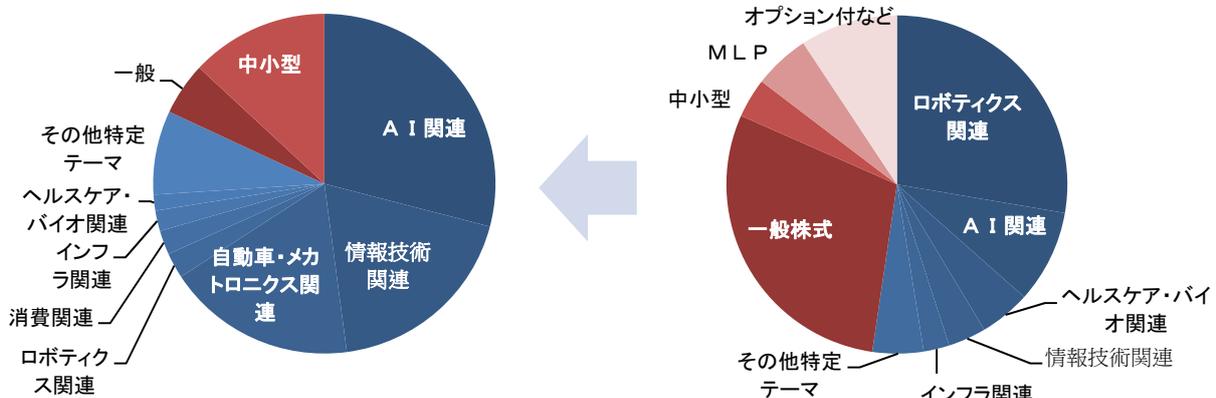
2. 先進国株式の新規設定ファンドはテーマ型一色

それでは、人気のある先進国株式の内訳を見てみよう。図表2は、先ほどと同じく米大統領選後とそれ以前の3年間におけるネット資金流入額の構成を示したもの。従来からテーマ型タイプ（図の青色部分）がかなりの割合を占めていたが、最近では8割近くが同タイプとなった。また、減税の恩恵を大きく受けるとされ、好景気を背景に成長期待も高い中小型タイプも人気だ。

テーマ型ファンドの顔ぶれには変化が見られ、以前はロボティクス関連が人気を集めていたが、最近ではA I 関連やI o T などの情報技術関連、また、直近ではE V や自動運転といった自動車・メカトロニクス関連にも注目が集まっている。

図表2 新規設定の先進国株式ファンドにおける、ネット資金流入額の内訳

■米国大統領選後（2016年12月～直近） ■大統領選前の3年間（2013年12月～2016年11月）



3. 直近は自動車・メカトロニクス関連の設定相次ぐ

2018年1月はE V や自動運転などをテーマとしたファンドが相次いで設定され、一部のファンドは多くの資金を集めている（図表3）。

環境先進国の欧州ノルウェー、フランス、イギリスをはじめ、世界各国においてディーゼル車とガソリン車の販売を禁止する方針が打ち出され、昨年10月にはフランス政府が、パリでは2024年までにディーゼル車を禁止、2030年を目途に従来型のガソリン車も禁止する規制を前倒しする方針を発表するなど、この分野の注目は高まっている。投資する側も環境意識が高まるなか、身近な自動車は馴染みやすいテーマであることが受け入れられたのだろう。社会インフラに様々な変革が生じている中、それらを成長機会とするテーマ型ファンドの根強い人気は続きそうだ。

図表3 最近設定された、主な自動車・メカトロニクス関連ファンド

ファンド正式名	投信会社	設定年月日	ネット資金流入 (億円)
グローバル自動運転関連株式ファンド（為替ヘッジなし）	三井住友	2017年4月	539
グローバル自動運転関連株式ファンド（為替ヘッジあり）	三井住友	2017年4月	116
モビリティ・イノベーション・ファンド	B N Yメロン	2018年1月	1,799
グローバルE V 関連株ファンド（為替ヘッジなし）（E V 革命）	大和住銀	2018年1月	919
グローバルE V 関連株ファンド（為替ヘッジあり）（E V 革命）	大和住銀	2018年1月	111
モビリティ関連世界株式戦略ファンド（モビリティ革命）	三井住友トラスト	2018年1月	2
グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド（1年決算型）（グローバルM a a S（1年決算型））	日 興	2018年1月	1
iFreeActive EV	大 和	2018年1月	1

※本レポートにおける新規設定ファンドは、ETF、ラップ専用を除く、追加型及び単位型投資信託を対象としている。

- 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の正確性を保証するものではありません。
- MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。

【照会先】

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリスト・グループ

標・吉田・福本・勝盛

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062 東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

URL: <http://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1085号

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会